

第1回学校運営協議会記録

1 日時 平成28年4月27日(木) 19:00~20:30 学校運営協議会

2 場所 学校運営協議会 北海道知内高等学校校長室

3 出席者 教育長 本間 茂裕 委員長 近藤 力 副委員長 廣瀬 雅一
委員 伊藤 宇多子 委員 谷口 文久 委員 橋本 祐一
事務局長 田苗 隆男 事務局員 與田 顕規 事務局員 小嶋 隆
事務局員 吉川 英昭

4 会次第

(1) 委員の委嘱

ア 本間 茂裕 教育長より委嘱

(2) 教育長挨拶

ア 本間 茂裕 教育長より挨拶

(3) 校長挨拶

ア 田苗 隆男 校長より挨拶

(3) 学校運営競技委員自己紹介

(4) 役員を選出

ア 委員長の選出 近藤 力 様

イ 副委員長の選出 廣瀬 雅一 様

5 協議

ア 学校概況および学校運営協議会について
事務局(教頭)より

平成28年度は、1学年68名の新入生を迎え、合計180名となった。新入生においては、遠方からの入学者が20数名いる。教員は新しく8名を迎え、校内研修コーディネーターとして道立高校退職校長をお迎えした。新採用教員を含め、若い世代の教員の指導助言を担ってくれる予定である。

1学年はネイパル森にて宿泊研修を実施。様子は、元気が良く、礼儀やマナーの面でも良好であった。行事等では活躍する見通しが持てたが、けじめを押さえた指導を実施していかなければならないという課題もある。

今年度の学校としての課題は、学力向上(学力の定着、向上と学力不振生徒の減少対策)、進路実現(進路実現の手だてとして導入されるブロードバンド講習、生徒募集につながるような進路指導の推進)、新入学生の確保(近隣地域への積極的な学校説明会等の実施)である。

特に生徒募集に関しては、生徒募集委員会を中心に、学校体制として函館市内を含め、渡島管内全体に中学校等を訪問し学校説明会を実施していく予定である。昨年度の反省を生かし、訪問時

期を精査し、卒業生や在校生のいる地域や中学校にも積極的に生徒の状況や活躍等を伝えていきたい。募集倍率 1.0 倍を目標に町とも協力し、学校体制を図っていく。中学生の保護者の抱かれる進路への課題や、中学生の実態や進路への意識を知るためにも、学校運営協議会の委員の皆様にも協力していただきたい。

この学校運営協議会は、平成 26 年に立ち上げられ、2 年間を経て、今年度平成 28 年度が一つの完成、区切りの年度となるので、様々な角度からたくさんのご意見を頂きたい。

イ 平成 28 年度学校経営ビジョンについて

事務局長（校長）より

昨年 4 回の運営協議会を経て、立案していただいたものや経緯を尊重して行きたいと考えている。

目指す学校像としては、平成 30 年から平成 31 年にかけて全道的に生徒は減少傾向になることから、生徒募集に対して学校全体で取り組んでいく必要性を感じている。知内高校は西渡島を中心とした基幹校の役割を果たしていかなければならない。その上で知内高校の教育活動を「ブランド化」していかなければならない。町立高校である知内高校は、地域の関心の高い存在であると実感している。それは赴任して 3 日間過ごただけで、理解ができた。地域に根ざす高校として、目指す生徒像としては、将来へ向け、社会参加のためのバランスと調和のとれた生徒の育成を掲げている。将来、生徒が社会参加できるための高校教育でありたい。本校の特徴としては、潤沢な教員の配置や環境から、様々な目標を持った生徒への対応が可能である。そういった中で、教える側の質が問われていく。つまり教員の質が問われてもいくわけである。質の高い教育を生徒に還元していく際に、質の高い教員を集めることも大切であるが、管理職としては今いる先生方同士の同僚性を高め、互いに生かし合えるようにしていきたい。今ある教育資源を生かしたいと考える。そのために校内での研修活動を促進していきたい。また、法令の教育基本法 9 条からも、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」とあるように、教える側の教員のスキルアップが重要と考える。学力の定着・向上、進路先の充実、部活動における人格形成の 3 点をバランス良く鍛えていきたい。

また、高校が地域や社会に開かれた存在であるように、ホームページ等を活用し、積極的な情報発信をしていきたい。生徒募集を含め、本町や本校の情報をいろいろな先生方が小学校、中学校、大学、卒業生の就職先等へ自ら赴くことを大切にしていきたい。教務部からは、家庭学習を中心とした自主的な学習習慣作りを重点として実践しており、6 月の考査へ向けた生徒への学習意欲喚起となっている。生徒指導面では、気持ちが素直である生徒が多く、生徒の質は高いと評価している。ただ、日常的な躰の部分を含め、手をかけて素直さに磨きをかけていきたい。心の病を抱える生徒の増加の原因の一つとして、スマートフォンの扱いがあげられている。人対人の言葉のキャッチボールができない生徒が増えている。進路での職場の面接官などからは、通り一遍等のコンピュータのような返答が多いと指摘されている。教育相談を充実させ、教員が悩みを聞くだけでなく、カウンセラー的な役割も担わなければならない。そういった体制作りも今後の課題である。生徒の自己有用感や学校満足度の引き上げが教育活動の支えとなると考えている。進路指導部からは、昨年に引き続き、今年度も進路達成率が 100 パーセントであるという部分の継続があげられている。

ウ 今後の活動について

事務局

昨年実現できなかった交流を重点に実施していきたい。5月13日（金）にPTAの会員交流会の実施を予定している。そこに運営協議会の方々にも参加していただき、交流を促進していきたい。

各学校行事（6月ふるさと調理実習、7月学校祭、公開授業週間、学校説明会等が実施されるので、生徒や教員、学校の様子をみていただきたい。秋には運営協議会主催の講演会を検討していきたい。また、特に遠方からの入学生の保護者が学校の通信等が見られないという意見から積極的にホームページにあげることや、スマートフォンや携帯電話の使用方法について学校側からのマナー指導と、生徒間での啓発を活発化させていきたい。

委員

様々な課題には、その都度対応していくことが望ましいと考える。良いところは伸ばし、課題は改善していくというサイクルを大切にしていきたい。全道的に高等学校の配置に大きな変化が見られる。函館市内の高校の定員にも変化が著しく見られるようになった。保護者は困惑しているところもあると思う。そういった中で、高校の中で必要とされる教育観は、目標を定めそこに向かっていく厳しさを教えることであると考えている。若いうちに厳しい経験を積ませ、将来社会に出たときにあらゆる事態に怯えずに対応していくことのできるしなやかさを育成したい。また生徒募集に関しては、自分自身の過去の経験からも、様々な先生方が自ら赴き、関わることで、中学校やその地域の保護者の受け取り方も良い方向へ向かうと思う。中学校側からの要望として考えられることは、良いことも悪いことも教えてほしいことであるとも聞いている。先生方においても、信頼性のある中で、生徒に好かれる先生になってほしいと願う。知内中学校への説明会では昨年は希望者だけであったが、今年度は全員参加の方向らしい。

委員

全道全国に先駆けて、知内高校で学校運営協議会が立ち上がり、今や知内町の小中学校、木古内町の小中学校でも協議会が立ち上がっている。知内高校の学校運営協議会がモデルとなっている。このムーブメントの拡がりを感じている。

教育長

学校運営協議会設置の動きについて、国からは努力目標といわれながらも、いずれはすべての学校に導入されていく見通しがあることから、取り急ぎ導入を検討している自治体が増えている現状がある。本道高校においては昨年度、本校含めて2校の実績がある。本校の学校運営協議会アドバイザーの方からも、本運営協議会では議論の循環がなされており、議論の方向性が学校運営に反映し生かされていることで、評価頂いている。

エ その他

委員

過去の高校からの学校説明会は、中学校のクラスの懇親会に合わせて行われていたこともあり、保護者の交流の場に高校の先生が来ていた。

委員

高校の学校説明会の際に、高校生が行うのが効果的であると思う。中学校側も中学生も聞き方に変化が起きるし、高校と中学校、双方の刺激にもなる。

委員

部活動という観点から見ると、吹奏楽、野球は非常に活動が見えており良い。中高問わず、活発な部活動の顧問が、他校種へ週に一度や月に一度でも出向き指導の交流をおこなうのはどうか。教員の指導力を生かして地域の有力な高校として存続していければと思う。

スキー少年団は現在全道大会に2人出場している。近隣の中学校でもスキーを続けたい生徒はいる。本校は、そういった個人種目を続けたい生徒の受け皿としても可能性がある。本校の部活動環境は他校からみてもうらやまれるほどである。他府県からも生徒募集はできないか。

教育長

小中高の縦の連携を生かした文化・体育活動の指導体制づくりはきわめて大切であり、社会教育の視点からも促進していきたい。他府県からの生徒募集の考え方については社会情勢の変化や現行の通学区域もふまえ、将来的に検討していきたい。

委員長

ルールができあがり、整ってきている。文武両道を規則からも考えていかなければならない。これらを1年間かけて基盤にし、学習、部活動を両輪にし、根性のある生徒を育成していく必要がある。